新聞　H28.5.24(火)　毎日　〔第3種郵便物認可〕

顕彰会の夢実現へ

千葉氏サミット　千葉市で8月

平安京をつくった桓武天皇の血を引く豪族・千葉氏が千葉のまちを開いて890年。一族ゆかりの全国11市町の首長が初めて一堂に会する「第1回千葉氏サミット」が、千葉市で8月に開かれる。企画したのは、18年前から千葉氏の歴史を語り継ぐ活動をしてきた市民団体「千葉氏顕彰会」。サミット開催は会設立時からの夢で、メンバーは「地道な活動が実を結んだ。まちの活性化につなげたい」と意気込んでいる。【渡辺洋子】

千葉氏は、桓武天皇のひ孫で「上総介」として関東に来た高望王(後の平高望)の子孫。今年は、1126年6月に大椎常重が、現在の千葉市緑区大椎から中央区亥鼻付近に本拠を移して初めて「千葉氏」を名乗ってから890年にあたる。

常重の子常胤は、石橋山の戦いで平氏方に敗れ、海を渡って安房国へ逃れた源頼朝にいち早く味方し、鎌倉を本拠とするよう進言するなど、鎌倉幕府の創設に大きな役割を果たした。常胤が東北から九州まで全国に得た領地を受け継いだ6人の子は「千葉六党」と呼ばれ、各地で繁栄を遂げた。

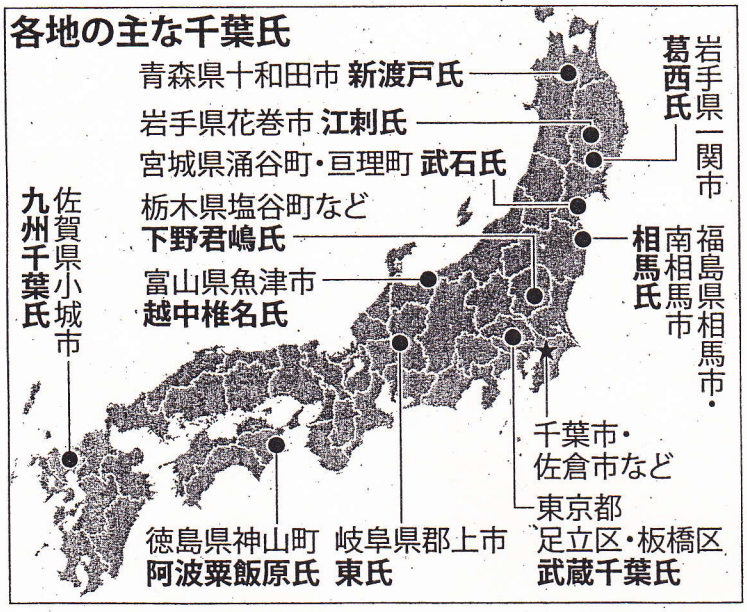
顕彰会は、そんな一族の歴史を語り継ぎ、千葉氏ゆかりの地の交流を進めることを目的に1998年、千葉宗家末裔で前千葉商工会議所会頭、元千葉銀行副頭取の千葉滋胤さん(82)を会長に設立された。会員は全国に約130人おり、講演会や一族の慰霊祭、全国にいる千葉氏一族を訪ねる研修会などを続けてきた。

しかし、千葉氏の歴史を詳しく知らない市民も多い。「千葉開府」から890年となる今年、「改めて千葉氏にスポットライトを当てよう」と顕彰会メンバーがサミット開催を熊谷俊人市長に持ちかけ、ゆかりの地の首長に呼びかけたところ、10市町のトップが快諾した。

サミットは8月21、22両日に中央区の三井ガーデンホテル千葉などで開かれる。岩手県一関市、宮城県涌谷町、福島県相馬市・南相馬市、岐阜県郡上市、佐賀県小城市のほか、県内から千葉市、佐倉市、酒々井町、東庄町、多古町の首長らが参加。各地の歴史を紹介し合うほか、熊谷市長を司会に観光やまちづくりについて議論する。史跡巡りもして交流を深める予定だ。

顕彰会事務局長の鈴木雅一さんは(69)は「サミットを、行政同士の防災連携などにもつなげたい。今年を千葉氏の全国ネットワークのスタートの年にし、開府900年を目指して活動していきたい」と話している。

サミットの問い合わせは、実行委員会事務局（043・245・5660）へ。

ゆかりの11市町結集

「開府890年」頼朝助け各地で繁栄